

# 渋皮がむきやすいニホングリ 果実の安定生産体系 標準作業手順書

－HP 公開版－





# 目次

はじめに	1
免責事項	2
<b>I. 渋皮がむきやすいニホングリ「ぼろたん」と「ぼろすけ」</b>	<b>3</b>
1. 「ぼろたん」と「ぼろすけ」の基本情報	3
2. 「ぼろたん」と「ぼろすけ」の品種特性	5
<b>II. 「ぼろたん」の安定生産に効果的な受粉樹の植栽方法</b>	<b>11</b>
1. 「ぼろたん」と「ぼろすけ」の栽培暦	11
2. 「ぼろたん」と「ぼろすけ」の交雑和合性	13
3. 受粉樹からの距離と収量の関係	15
4. 「ぼろたん」と「ぼろすけ」の2品種で刈園を経営する場合の植栽方法例	17
5. 「ぼろすけ」育成前に栽植した「ぼろたん」栽培園地において、 受粉樹を「ぼろすけ」に更新する方法の例	19
6. 種苗の入手先	21
<b>III. 用語解説</b>	<b>22</b>
参考資料	23
担当窓口、連絡先	24

## 「はじめに」

ニホングリは、チュウゴクグリ等の世界で栽培されている他のグリ種に比べて一般に大果ではあるものの、渋皮がむきにくいという欠点があり、農研機構では渋皮のむきやすさと大果性を兼ね備えたグリ品種の育成に取り組んできた。2006年に公表したニホングリ「ぼろたん」は、大果でかつ渋皮が簡単にむけるという画期的な特性から、全国で普及が進んでいる。また、2016年には「ぼろたん」より早生で、「ぼろたん」と同様に渋皮がむきやすい「ぼろすけ」を公表した。これにより、渋皮がむきやすい果実の**収穫開始を1週間程度前倒し**することで、より長期間市場に供給することが可能になった。

グリは自家不和合性を示すことから、結実のために他品種による受粉が必要であり、栽培上受粉樹の混植が必要である。また、これまでグリでは他家不和合となる品種の組み合わせは報告されていないため、従来のグリ栽培においては、複数品種を混植することで互いに受粉樹とする栽植方法が採られてきた。渋皮のむけやすい品種の栽培時には、渋皮のむけにくい品種を混植すると、収穫時に混入するリスクが生じるため、これまでは早生の「ぼろたん」の受粉樹には収穫時期の重ならない中生から晩生の品種か、果実を外観で区別できる「利平ぐり」を推奨してきた。しかし、この方法でも、台風等の強風で早期落果した場合等に果実が混入するリスクは存在するため、渋皮のむけやすい品種をより安定生産できる栽植方法が必要とされていた。**「ぼろたん」と「ぼろすけ」は兄弟品種であるが互いに受粉樹として利用できるため**、これら2品種のみを混植することで、その園地からは渋皮がむきやすい果実のみを安定的に収穫することが可能となる。また、これまでは最適な受粉樹との距離や密度についての科学的な知見はほとんどなく、経験則に基づいた栽植方法となっており、より効率的に受粉樹を活用できる最適な栽植距離や密度の解明が求められていた。

本手順書では、「ぼろたん」と「ぼろすけ」の品種特性とともに、両品種の渋皮のむけやすいという特徴を活用したグリをより安定生産できる、渋皮のむけにくい他品種の果実が混入するリスクを最小限に抑えた植栽方法について紹介する。

## ■ 免責事項

- 農研機構は、利用者が本手順書に記載された技術を利用したこと、あるいは技術を利用できないことによる結果について、一切責任を負いません。
- 本手順書に記載された品種特性は茨城県つくば市における例であり、地域や気候条件等より変動することにご留意ください。
- 本手順書に記載の表 I -2、表 I -3、表 II -1、図 I -2 および表紙写真は農研機構 普及成果情報：渋皮が簡単に剥ける早生の二ホングリ新品種「ぼろすけ」（園芸・茶 2016 年）より改変し、引用されたものです。
- 本手順書に記載の図 I -3 は、「ぼろたんの話」（新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業における 2008～2010 年度実施課題『渋皮が剥けやすい二ホングリ「ぼろたん」の生産・利用技術の確立』の成果パンフレット）より改変し、引用されたものです。
- 本手順書に記載の図 I -4 は、「ぼろたん収穫利用ガイド – 6 次産業化のヒントー」（改訂第 2 版）より改変し、引用されたものです。
- 本手順書に記載の図 II -2、3 は農研機構 普及成果情報：クリ「ぼろたん」の安定生産に効果的な受粉樹の植栽方法（園芸・茶 2019 年）より改変し、引用されたものです。
- 本手順書に掲載された図表は、農研機構が著作権を有するものです。

# I. 渋皮がむきやすい二ホングリ「ぼろたん」と「ぼろすけ」

クリのうち国内で主に栽培されている二ホングリ品種は、天津甘栗等に使用されるチュウゴクグリ品種と比べ果肉のやわらかさや果実の大きさなどの点で優れるものの、渋皮がむきにくいという欠点がある。農研機構では、良食味で渋皮がむきやすい二ホングリ品種の育成を目的として交雑・選抜を行ってきた結果、渋皮が簡単にむける画期的な品種として、「ぼろたん」、および「ぼろすけ」の育成に成功した。

「ぼろたん」は、9月上～中旬に収穫され、約25gと果実が大きく、甘味・香気が良く食味が優れる。「ぼろすけ」は、8月下旬～9月上旬と「ぼろたん」より一週間程度早く収穫され、果実は「ぼろたん」よりも小さく、食味もやや劣る。いずれの品種も鬼皮の上から果肉に達する程度の傷を入れて加熱することで、容易に渋皮をむくことが可能である。

## 1. 「ぼろたん」と「ぼろすけ」の基本情報

### 「ぼろたん」

品種登録年：2007年10月22日（登録番号15658）

育成機関：農研機構果樹茶業研究部門

育成地：茨城県つくば市

交配組合せ：550-40×「丹沢」

※550-40：290-5（「森早生」×「改良豊多摩」）×「国見」

栽培適地：全国のクリ産地（図I-1）

主な栽培地：熊本県（2020年産で60.2ha）、茨城県（2020年産で51.6ha）、埼玉県（2020年産で36.9ha）

奨励品種などの採用状況：熊本県や岐阜県等において推奨品種とされている。

(2023年11月時点)

## 「ぼろすけ」

品種登録年：2018年5月29日（登録番号26828）

育成機関：農研機構果樹茶業研究部門

育成地：茨城県つくば市

交配組合せ：550-40×「丹沢」

栽培適地：全国のクワ産地（図I-1）

主な栽培地：まだ導入された産地はない。

奨励品種などの採用状況：2023年11月時点で、なし。

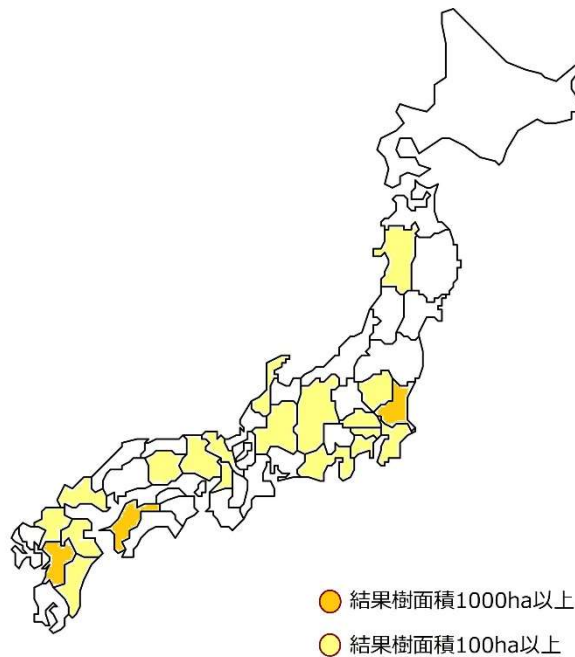


図 I -1 国内のクワ生産地

結果樹面積 100ha 以上の都道府県を色別で示した。

（令和元年産 果樹生産出荷統計（農林水産省）による）

## 2. 「ぼろたん」と「ぼろすけ」の品種特性

### (1) 収穫特性

育成地(茨城県つくば市)における「ぼろたん」の収穫時期は9月上旬～中旬で早生の主要品種である「丹沢」よりやや遅く、「ぼろすけ」は「丹沢」と同時期の8月下旬～9月上旬に収穫される(表I-1)、いずれも渋皮がむきやすい品種である。

- ① 1樹当たりの収量は、「ぼろたん」、「ぼろすけ」ともに「丹沢」と同程度である。
- ② 裂果の発生は「ぼろたん」は「丹沢」より明らかに少なく、「ぼろすけ」は同程度～やや少ない。
- ③ 双子果と腐敗果の発生は「ぼろたん」、「ぼろすけ」ともに少ない。
- ④ 虫害果(モモノゴマダラノメイガ)の発生は、「ぼろたん」は「丹沢」より多く、「ぼろすけ」は同程度である(表I-2)。なお、育成場所では隣接してモモが植栽されているため、共通害虫であるモモノゴマダラノメイガの被害を受けやすくなっており、対策として年間2回以上の防除を行っている。通常の圃場であれば、大きな問題とはならないと考えられるが、モモノゴマダラノメイガの発生が多い圃場では、適期防除に努める必要がある。

表I-1 「ぼろたん」と「ぼろすけ」の収穫盛期(2014年～2015年の平均)

品 種	茨城県 (月/日)	岐阜県 (月/日)	兵庫県 (月/日)	愛媛県 (月/日)	熊本県 (月/日)
ぼろたん	9/7	9/16	9/10	9/12	9/5
ぼろすけ	9/1	9/8	9/5	8/29	8/24
丹沢	9/1	9/7	8/28	9/3	8/23

表I-2 「ぼろたん」と「ぼろすけ」の収穫特性



**(茨城県つくば市 2014年～2016年の平均)**

品 種	収量 (kg/樹)	裂果率 (%)	双子果率 (%)	腐敗果率 (%)	虫害果率 (%)
ぽろたん	6.2	2.0	4.7	1.1	21.4
ぽろすけ	5.9	12.2	1.6	0.8	10.1
丹 沢	6.3	20.3	1.8	1.2	9.9

## (2) 果実特性

- ① 果実の大きさは、「ぽろたん」は約 25g で「丹沢」と同程度、「ぽろすけ」は 21 g で「丹沢」よりも小さい（表 I -3）。
- ② 蒸した果実の果肉の色は、「ぽろたん」は「丹沢」と同程度に黄色く、「ぽろすけ」はやや薄い。
- ③ 肉質は「丹沢」と比較して、「ぽろたん」はより粉質でホクホクしており、「ぽろすけ」は同程度である。このため、「ぽろたん」は「ぽろすけ」、「丹沢」よりも甘露煮にした場合にやや割れやすい点に注意が必要である。
- ④ 甘味と香気は、「ぽろたん」は「丹沢」と同程度に多く、「ぽろすけ」は若干少ない。
- ⑤ 「ぽろたん」の方が「ぽろすけ」よりも果実が大きく、総合的な果実品質も優れることから、より高単価での販売が期待できる。

表 I -3 「ぽろたん」と「ぽろすけ」の果実特性

品 種	果実重 (g)	果実品質				
		果肉色	肉質	甘味	香気	渋皮の むきやすさ
ぽろたん	24.9	黄	粉	やや多	やや多	容易
ぽろすけ	21.0	淡黄	やや粉	中	中	容易
丹 沢	24.0	黄	やや粉	やや多	やや多	困難

### (3) 「ぼろたん」と「ぼろすけ」の渋皮のむき方

鬼皮の上から果肉に達する程度の傷を入れて加熱することで、容易に渋皮をむくことが可能である（図 I -2）。図 I -2 は、加熱装置がオーブトースターの例であり、加熱に際して果実の乾燥を伴うため、おおよそ長さ 2cm、深さ 3mm の果肉に達する程度の少ない範囲での傷入れでも剥皮は可能である。

一方、ブランチング（湯がき）や蒸す等の果実が乾燥しない加熱方法の場合は、図 I -3 に示すような、ある程度広範囲に傷を入れる必要がある。なお、「ぼろたん」と「ぼろすけ」では、渋皮のむけやすさに大きな違いは見られない。

鬼皮および渋皮への傷入れ時には、包丁等を使用する代わりに、図 I -4 に示すような傷入れ器具を使用すると安全だけでなく、効率的に作業が可能である。なお、傷入れ作業時には安全のため防護具の着用等により手指を保護する。

また、「ぼろたん」では、収穫後に数日間常温で放置すると、むけない果実や腐敗果の割合が増加する等、果実品質が大きく低下するため、収穫後は速やかに冷蔵貯蔵するか 10℃での予冷を行って品質の低下を防ぐことが重要である。冷蔵貯蔵することによっても「ぼろたん」の渋皮のむけやすさが向上することが確認されているが、2 か月以上の長期の冷蔵貯蔵では果肉の変色や腐敗等の発生率が増加して品質が低下するため、収穫後は速やかに予冷・冷蔵するとともに、適正な冷蔵温度（0℃）で 1 か月程度の貯蔵を行うことが望ましい。



図 I -2 「ぽろたん」、「ぽろすけ」の渋皮のむきやすさ

果実中心部におおよそ長さ 2cm、深さ 3mm の果肉に達する程度の傷を包丁で入れて、オーブントースター（1200W）で 7 分加熱

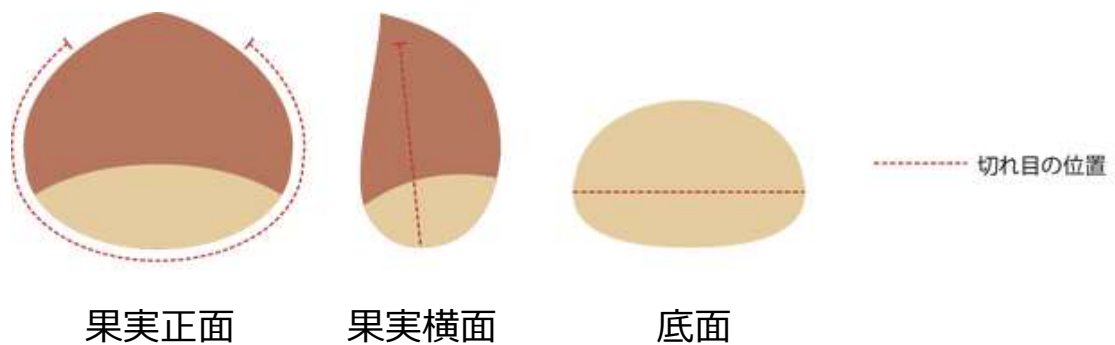


図 I -3 ブランチング等、果実が乾燥しない加熱の場合の傷の入れ方

点線のように果頂部を残して周縁約 270 度の範囲に、深さ 3mm 程度の傷を入れる。



ぽろカット  
長谷川刃物(株)



ぽろたん傷つけ器  
(有)野口鍛冶店



傷付け器試作品  
茨城県工業技術センター

図 I -4 「ぽろたん」、「ぽろすけ」への傷付け器具の例

## Ⅱ. 「ぼろたん」の安定生産に効果的な受粉樹の植栽方法

「ぼろたん」、「ぼろすけ」とともに、通常のクリと同様の管理で栽培が可能である。これら 2 品種は互いに交雑和合で、他のニホングリ品種とも交雑可能であり、相互に受粉樹として利用できる。また、クリ栽培時には受粉樹が隣接して植栽されている場合に最も収量が高くなる。このため、これら 2 品種で渋皮のむきやすい果実だけが収穫できるクリ園を経営する場合には、果実が大きく高単価が期待できる「ぼろたん」を 2 列、その間に「ぼろすけ」を 1 列植栽することで、効率的な収穫等の作業が可能になるとともに収益の最大化が期待できる。

### 1. 「ぼろたん」と「ぼろすけ」の栽培暦

栽培管理の基本は他のクリ品種と同様であり、これら 2 品種の育成地での栽培暦を図Ⅱ-1 に示す。薬剤散布、施肥については、各生産地の防除暦、栽培歴に従う。「ぼろたん」と「ぼろすけ」では、収穫期が異なる以外は栽培暦はほぼ同じである。

月	1月			2月			3月			4月			5月			6月		
旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生育	休眠期									発芽期			展葉期			開花期		
栽培管理	剪定						苗木定植 施肥						草刈り					
薬剤散布																クイガ アブラムシ		

月	7月			8月			9月			10月			11月			12月		
旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生育	果実肥大期						果実成熟期			休眠準備期			落葉期			休眠期		
栽培管理	草刈り						ぼろすけ収穫											
							ぼろたん収穫											
薬剤散布	カミ キリ ムシ	モモノゴマダラ ノメイガ		モモノゴ マダラノメ イガ														

図Ⅱ-1 「ぼろたん」および「ぼろすけ」の育成地での栽培暦

## 2. 「ぼろたん」と「ぼろすけ」の交雑和合性

クリは自家不和合性であるため、栽培時に受粉樹の混植が必要である。「ぼろたん」や「ぼろすけ」の出荷時に渋皮がむけにくい通常の他品種の果実が混入すると、渋皮がむけやすいという特性を活かした販売が難しくなる。そのためこれまでは、他品種混入の防止策として「ぼろたん」と果実外観で見分けできる品種や収穫期が重ならない品種の受粉樹としての利用が行われてきた。

クリ雌花の受粉適期は開花始めから 1～3 週間の期間で、「ぼろたん」と「ぼろすけ」の雄花開花期間は互いの雌花の受粉適期と十分重複する（図 II-2）。また、両品種は兄弟品種であるが、相互に交配した場合の結実率はいずれも 70%以上であり、この値は「ぼろたん」と他の主要なニホングリ品種との結実率と同程度以上である（表 II-1）。このため、これら 2 品種は互いに受粉樹として利用可能である。すなわち、両品種のみを植栽した園地では渋皮のむきやすい果実のみを安定して収穫することが可能となる。

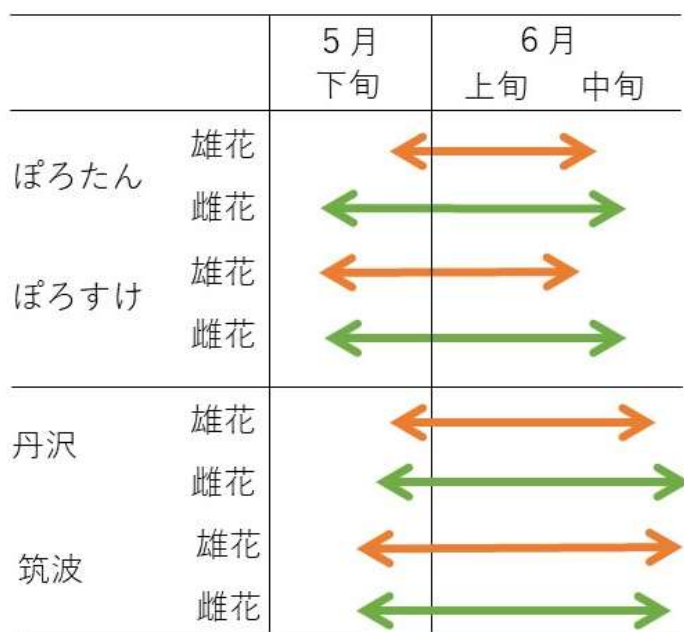


図 II-2 「ぼろたん」、「ぼろすけ」および主要品種の育成地での開花時期



**表Ⅱ-1 「ぼろたん」と「ぼろすけ」の交雑和合性**

種子親	花粉親	結実率 (%)
ぼろたん	ぼろすけ	71.6
ぼろすけ	ぼろたん	79.4

2012、2013 年の茨城県つくば市における平均  
「ぼろたん」と従来の受粉樹品種との結実率は平均 71%

### 3. 受粉樹からの距離と収量の関係

「ぼろたん」と「ぼろすけ」の栽培において渋皮が剥きやすい果実を安定的に収穫するためには、これら2品種のみを混植するか、渋皮が剥きにくい品種が混入しないように、果実の外観が異なる品種や収穫時期が異なる品種を受粉樹として利用することが望ましい。現状では受粉樹の植栽間隔は4～10m程度に設計されていることが多いが、その根拠となる科学的な知見は乏しく、最適な受粉樹の植栽間隔についての指標が望まれている。

そこで、2016年に農研機構果樹茶業研究部門内の圃場（茨城県つくば市）において、図Ⅱ-3のように、受粉樹の列から4m、8m、12m、16mの距離に植栽された「ぼろたん」樹を用いて、「ぼろたん」の収量および、受粉樹との自然受粉により結実した果実の割合を調査した。受粉樹に使用した品種（「利平ぐり」）は、「ぼろたん」および「ぼろすけ」と同程度の交雑和合性を有すると考えられ、調査時の樹齢は各品種とも7年生である。収量は受粉樹と隣接する4m区で非常に高く、受粉樹を隣接する列に植栽することが重要であることが示された。また、受粉樹からの植栽距離が近いほど、受粉樹の花粉で結実する果実の割合が上がり、収量が増加することが明らかとなった（図Ⅱ-3）。

（2012～2017 食料生産地域再生のための先端技術展開事業のうち、被災地の早期復興に資する果樹生産・利用技術の実証研究において実施。研究実施者：農研機構果樹茶業研究部門品種育成研究領域ナシ・クリ育種ユニット 齋藤寿広、西尾聡悟）



#### 4. 「ぼろたん」と「ぼろすけ」の 2 品種でクリ園を経営する場合の植栽方法例

クリは果実重が大きいほど高単価が期待できる（表Ⅱ-2）ことから、より果実の大きい「ぼろたん」を 2 列植栽し、その間に「ぼろすけ」を 1 列植栽することで、収益を最大化させることが期待できる（図Ⅱ-4）。本設計においては、隣接した列に植栽された異なる品種が相互に受粉樹の役割を果たすことができるため、「ぼろたん」、「ぼろすけ」の両品種ともに安定した結実が期待できる。「ぼろたん」に「ぼろすけ」を受粉した場合、やや果実が小さくなるが実用上大きな問題とはならない程度である（表 B, ※P22 内部資料）。

**表Ⅱ-2 クリの階級別の目安単価（2023 年）**

階級	単価（kg／円）
2L	750
L	650
M	500

単価は聞き取りによる



図Ⅱ-4 「ぼろたん」と「ぼろすけ」のクリ園を経営する場合の植栽方法の例  
 (樹間は4~6mを目安)

## 5. 「ぼろすけ」育成前に栽植した「ぼろたん」栽培園地において、受粉樹を「ぼろすけ」に更新する方法の例

クリは自家不和合性であるため、結実安定のために受粉樹として複数品種の混植が必要である。「ぼろすけ」の育成以前は、渋皮のむけやすいニホングリ品種が「ぼろたん」だけであったため、「ぼろたん」の栽培時に渋皮のむけにくい品種を受粉樹として混植する必要があった。

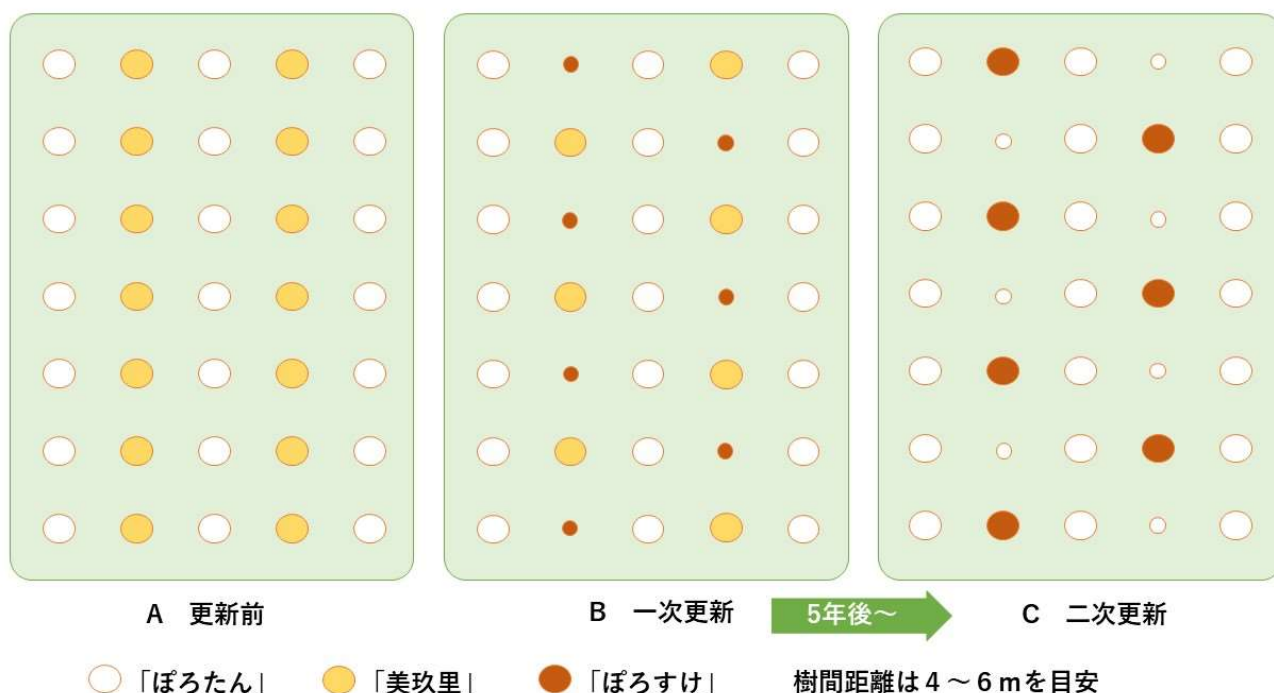
クリの収穫方法は、地上に落ちた果実を拾い集める形が一般的であるため、この場合、「ぼろたん」の収穫時に渋皮のむけにくい受粉樹品種の果実が混入し、渋皮がむけやすいという特性を活かした販売が難しくなる危険が生じる。これを避けるため、「ぼろたん」の受粉樹として「ぼろたん」と収穫時期の重複しない「美玖里」、「石鎚」、「岸根」といった品種や、「ぼろたん」と果実外観が異なり識別可能な「利平ぐり」をこれまで推奨していた。

（『クリ「ぼろたん」の受粉樹には「美玖里」、「石鎚」、「岸根」、「利平ぐり」が適する』、農研機構 果樹研究所 2011 年度主要普及成果情報、  
[https://www.naro.go.jp/project/results/laboratory/fruit/2011/142a0\\_01\\_16.html](https://www.naro.go.jp/project/results/laboratory/fruit/2011/142a0_01_16.html) からダウンロード可能)

しかし、この方法でも、強風等で早期落果した場合等に受粉樹品種の果実の混入が生じうるため、「ぼろたん」と「ぼろすけ」を混植する本 SOP の栽培方法が、渋皮のむけやすい品種の栽培という点においてより優位性があると言える。

一方、既存の「ぼろたん」に受粉樹として「美玖里」を混植した圃場（図Ⅱ-5A）を、本 SOP の栽培方法である「ぼろたん」と「ぼろすけ」からなる渋皮のむけ

やすいくりだけを生産できる圃場に改良する場合、一度にすべての「美玖里」を「ぼろすけ」に更新してしまうと、「ぼろすけ」が成長するまでの数年間受粉樹が不在となり「ぼろたん」の結実が不良となる。このため、図Ⅱ-5B→Cのように5年程度の間隔を空け、2回に分けて品種の更新を行うのが良い。



## 図Ⅱ-5 「ぼろたん」と「美玖里」の混植園を、「ぼろたん」と「ぼろすけ」の混植園に更新する例

一次更新時（B）には、すべての「ぼろたん」と受粉樹（更新しない「美玖里」）が隣接する状態を維持するため、列ごとにずらした千鳥状に半数を「ぼろすけ」に更新する。「ぼろすけ」が受粉樹として成長した二次更新時（C）には、残された「美玖里」を「ぼろたん」に更新することで、更新完了後の圃場内を「ぼろたん」の割合の高い、より収益性の高い圃場とすることができる。

## 6. 種苗の入手先

「ぽろたん」および「ぽろすけ」の種苗入手先については、（一社）日本果樹種苗協会（〒104-0041 東京都中央区新富 1-17-1 宮倉ビル 4 階 03-3523-1126）にお問い合わせください。



## Ⅲ. 用語解説

### ○受粉樹

クリは同じ品種の花粉では受粉しない性質（自家不和合性）があるため、花粉用として近くに異なる品種を植える必要があり、これを受粉樹と呼ぶ。クリでは複数品種を混植することで相互に受粉させることが一般的である。

### ○交雑和合性

異なる品種間において交雑した場合に、受精・結実する現象。

### ○鬼皮・渋皮

「鬼皮」は、クリ果実の堅い外皮、「渋皮」は、鬼皮と果肉の間にある薄皮のこと。チュウゴクグリ等と異なり、一般的なニホングリは、焼き栗などにしても渋皮がむきにくい性質を持っている。

### ○双子果

渋皮に包まれた子葉(果肉)が、通常とは異なり2つ入った果実のこと。渋皮の除去作業が煩雑となり、剥皮後の果肉が小さくなるため、加工には適さない。

## 参考資料

1. ぼろたんの話（農研機構果樹茶部門刊、2011年2月）  
[http://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/kind-pamph/012682.html](http://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/kind-pamph/012682.html) からダウンロード可能
  2. 良渋皮剥皮系ニホングリ品種の渋皮剥皮法（特許第4925038号）
  3. 「ぼろたん」の剥き方（NARO channel、2015年11月16日）  
<https://youtu.be/D308k2N5YEc>
- 右の二次元バーコードから視聴可能 → 
4. クリ「ぼろたん」のジョイント栽培マニュアル -早期成園化・低コストの樹形管理と防除技術-（農研機構果樹茶業研究部門刊、2018年3月）  
[http://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/080224.html](http://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/080224.html) からダウンロード可能
  5. クリ「ぼろたん」の安定生産に効果的な受粉樹の植栽方法（農研機構 普及成果情報 園芸・茶 2020年10月）  
[http://www.naro.go.jp/project/results/4th\\_laboratory/nifts/2019/19\\_037.html](http://www.naro.go.jp/project/results/4th_laboratory/nifts/2019/19_037.html) からダウンロード可能
  6. 「ぼろたん収穫・利用ガイド —6時産業化のヒント—」（改訂第2版）（農研機構果樹茶業研究部門編、2017年10月）  
[http://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/069833.html](http://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/069833.html) からダウンロード可能

## 担当窓口、連絡先

外部からの受付窓口：

農研機構 果樹茶業研究部門 研究推進部 研究推進室

029-838-6453（研究推進室長）

029-838-6451（果樹連携調整役）

NIFTS\_inq@naro.affrc.go.jp



「農研機構」は、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構のコミュニケーションネーム（通称）です。